原 著

17世紀英国の商業・交易文献の語彙研究(4)
― 17世紀交易に関する新語（New Word）について ―

飯田　一郎

＜要　旨＞

17世紀英国社会は、海外領土の拡大による海外交易の促進によって社会、産業システムの変化とこれに伴う言語変化が発生した。本論では、交易品とその交易に伴うシステムに焦点をあて、その言語変化を探ることにした。中産階級の出現による消費拡大が交易品への質的、量的な影響を与え、多様化した新世界からの交易品に対応するため新語（New Word）や、外国語から借用した借用語（Borrowing Word）が多数発生したことが仮定された。よって、17世紀の商業・交易文献から交易品や交易システムに関する語彙を収集したところ当時の交易史を反映する新語、借用語、関連表現が多数観察された。本論は、これらの語彙を示しその歴史、社会背景、逆に語彙が示す社会変化についても言及している。このことから言語と社会の相関関係を考察する歴史社会言語学及び学際研究としての様相を帯びた論文となっている。

キーワード：新語　借用語　交易品　交易手段　度量衡

はじめに

17世紀はチューダー王朝期（1485～1603）の大航海時代を経て、英国が海外に交易路を確立した時代である。海外交易の組織化と資本集中のために合弁会社(joint venture company) が設立された。ロシア会社(Muscovy Company) 、レヴァント会社 (Levant Company) 、東インド会社 (East India Company) 、西インド会社 (West India Company) 、ヴァージニア会社 (Virginia Companies) の諸カンパニーが設立され、ロシア、オリエント、アジア、西インド諸島、ヴァージニア植民地との遠距離貿易はかってない繁栄を極めた。その結果、17世紀以前に英国商人が取り扱わなかった交易品が多数英国内に輸入された。また貿易収支を保つため、英国の特産品が輸出され、輸入品を加工して輸出する加工貿易も発生した。これらの歴史、社会的情勢下、交易品や交易システムに対応する語彙を造り出すことが求められた。17世紀の商業・交易文献から収集した新語彙を「交易品」と「交易システム（交易方法と手段)」に２分類し、この範疇に適合できない語彙は「その他」の分類に収めた。その結果、本論第Ⅰ部で輸出入品の語彙及び関連言語表現を、第Ⅱ部では海上、陸上輸送、度量衡の語彙を示し、これらの範疇に収まらない貿易収支、交易財政に関連する語彙は第Ⅲ部で取り扱っている。また、言語の大海を導く道標として *Oxford English Dictionary*（以降 *OED* とする）を使用して文献から収集した語彙との対照を試みている。

Ⅰ　交易品 (Commodities)

1．輸入品 (Imported Goods)

前近代ヨーロッパの交易は地中海覇権を掌握したイタリア商人、バルト海を独占したハンザ同盟(Hanseatic League)の商人によって取り扱われていた。したがって、外国商人によって英国に輸入される交易品は南ヨーロッパ、北ヨーロッパの物産が主であった。17世紀に、英国の海外覇権の掌握にともない、ヨーロッパ圏外の物産が英国商人の手によって国内に輸入されるようになった[1]。その一方17世紀初頭の文献によると、イタリアから薄地の生地や衣類を、オランダ、ドイツからは主に厚手の織物、はがね、銅等の生活必需品が輸入されていたことが記録されている。

西南女学院大学人文学部人文学科助教授

"Of the Dutch and Germane Merchants, they (English merchants) buy Rhenish Wine, Fustians, Copper, Steel, Hempe, Onion sheed, copper and Iron Wyre, Latten, Kettles, and Pannes Linnen Cloth, Harnnas, Saltpeter, Gun-powder, all things made at Norenburg ... Of the Italians, they buy all kinde of silke wares, Velvets, wrought and unwrought, Tassitaes, Sattios, Damasks, Sarsenets, Milan Tassitaes, Cloth of Gold and Silver, Grograines, Chattels, Sattin, and sowing silk, Organnzine, Orsoy, and all other kindes of ware either made or to had in Italie."
(*A Treatise of Commerce*, 1601, p.23)

17世紀後半には、商業革命によってジェントリーや商人を中心とした消費者としての中産階級の躍進が輸入品の増大につながった。この社会背景を反映する主要交易品として、たばこ (Virginia) 、砂糖 (West Indies) 、サラサ (India) の輸入が挙げられる[2]。これらの交易品はヨーロッパ圏外からの輸入品であり、生活必需品ではなく奢侈的用品である。17世紀後半の英国では海外交易による富の蓄積により中産階級が贅沢な物品への関心を持ち始めた時代であることがうかがえる。例えば1673年の文献にはヨーロッパ圏外からコーヒー、紅茶のみならず、ブランディーやチョコレートまで輸入されていたことが記録されている[3]。

"There is... so vast a quantity of Brandy, Mum, Coffee, Tea and Spanish Chocoletta, every year imported into England, and consumed here...yet is there expanded by the Subjects yearly in these drinks above 400000 l." (*The Grand Concern of England Explained*, 1673, p. 21)

17世紀の前半と後半で輸入品目に変化がみられることから、商業・交易文献から収集した語彙を前、後半世紀別に表記する。各語にはこれらが記録された商業・交易文献の出版年を示し出版年代順に列記する。表記方法として (　　) 内は現代英語、[　　]内は文献の出版年、出版年に付された* は *OED* (Oxford English Dictionary) の初出例よりも早く記録された語 (antedatings)、** は *OED* に記載の無い語 (unregistered words) である。

17世紀前半 (1601～1650)
Rhenish Wine (Rhine wine)[1601]、Fustian [1601]「ファスティアン織」、Copper [1601]、Steel [1601]、Onion sheed (seed) [1601]、Iron Wyre (Iron wire) [1601]、Latten [1601]「金属板」、Kettles [1601]「釜」、Pannes [1601] 「ビロード生地」、Linnen (linen) [1601]「亜麻布」、Harnnas (harness) [1601]「馬具」、Saltpeter [1601]「硝石」、Gun-powder [1601], Velvet [1601], Tassitaes (tassel) [1601]「緞子」、Milan Tassitaes [1601]「ミラノ緞子」Sattios (satin) [1601]「繻子」Damasks [1601]「紋織物」、Sarsenets (sarsenet) [1601]「絹裏地」Cloth of Gold and Silver [1601], Grograines (grogram) [1601]「絹と毛の粗布」Chattels [1601*],「家財」、Silkware [1601*], Sattin (satin) [1601], Organnzine (organzine) [1601*]「より糸」、Orsoy [1601]、Estridge wool (estrich wool) [1601], commodity (1601*), China [1615b*]、Tregar [1638b*]「リネン」、Buckram [1638b*]「亜麻布」、Hempe (1641a) 「麻」、Yarne (yarn) [1641a]「紡ぎ糸」、Flaxe (flax) [1641a]「亜麻」、Cotton (1641a), Spice [1641b], Indico (indigo) [1641b]「藍色染色」, Benjamin [1641b], refined Salt-Peter [1641b],「硝石」、Cotton yarn [1641b]

17世紀後半 (1651～1700)
Coffee [1673], Silk gown [1673*]、Chocoletta (chocolate) [1673]、Tea [1673]、Camlet [1676]「薄地の毛織物」、Drugget [1676]「絨毯」、Frippery [1679c]「美麗な服地」、Madder [1680*]「あかね染色」、Saffllower [1680*] Bengal [1681]「薄地の絹織物」, Silken Stuffs [1681], Callicoes (calico) [1681]「更紗」、Musilns (muslin) [1696a]「柔らかい綿織物」、Flaxen [1696a]「亜麻」、Romals (rumal) for Handkerchiefs [1700a]「ハンカチに用いる絹の平織」、Cambricks (cambric) [1700a]「薄地の亜麻織物」

上記の語彙例に見られる特徴として、織物製品に見られる質の変化が顕著である。17世紀前半は実用を重視した寒さを凌ぐ厚地の旧織物 (old draperies) が輸入されているが、後半になると華美な装飾を目的とした薄地織物 (new draperies) の輸入がより多く見られる。例えば、camlet, frippery, bengal, calico, muslin, rumal, cambrick 等があげられる。これらの布地は17世紀前半には文献に見られない語彙である。

2．輸出品 (Exported Goods)

輸出品に関しては1601年の文献に次のような記述があり、17世紀前半は主に鉱山資源 (fell, lead, tin, alabaster)、農畜産物 (wool, coneyskin, leather, tallow「獣脂」) など第一次産品を輸出していたことが明らかである。

"There goeth also out of England, besides these Woollen Clothes, into the low Countries, Wooll, Fel, Lead, Tinne, Safforn, Conyskins, Leather, Tallow, Alabasterstone, Corne, Beer, and diverse other things, amounting unto great summes of money." (*A Treatise of Commerce*, 1601, p. 22)

しかしながら1679年の文献では stockings や pewter, alum「染色用明礬」のような鉱物資源の加工品が輸出され始めている。しかし、その程度の輸出品では輸入超過を補うべくもなく、貿易赤字に陥っていたことが記録されている。

"And the Commodities exported out of England into France, consisting chiefly of woollen Cloaths, Serges, knit Stockings, Lead, Pewter, Allum, Coals, and other Commodities, which do not amount unto above ten hundred thousand pounds a year, by which it appears, that our Trade with France, is at least sixteen hundred thousand pounds per annum clear loss to this Kingdom." (*An Account of the French Usurpation upon the Trade of England*, 1679, p. 6)

そこで英国は貿易赤字から脱却すべく、海外からの特産品を英国内で加工して再輸出する必要性に迫られたのである。インドから flax「亜麻」や hemp「麻」を輸入加工してロープや漁具、船の索具を製作した。アイルランドから安価の yarn「紡ぎ糸」を輸入して毛織物を編み、中東から cottonwool 「生綿」を輸入して fustian「綿のパイル織」、vermilion「染色織物」、dimities「平織り綿布」などに加工してヨーロッパ近隣諸国に再輸出したのである。ちなみに reexport 「再輸出」という語は *OED* では1690年が初出になっているが、1681年の文献に次のように記録されている。

"...the excess of these Commodities imported unto us, is as much as cometh to 1600000. in the year, more than our Commodities that are re-exported unto them; for which we do pay them ready money." (*The Trade of England Revived*, 1681, p. 14)

以上のように交易品や貿易形態の変化により新たな表現を示す関連語彙が発達したことは明らかである。次項では輸出入により発生した関連語彙を調べてみる。

3. 輸出入関連語彙の発達

外国からの交易品を取り扱うようになって商品に国産、外国産という区別が必要となり、home-grown [1645a*]、home-made [1645a*]、native commodity [1693]、あるいは foreign production [1676**]、foreign made [1693**]という表現が発生している。また、加工貿易の発達により原材料を加工する必要から crude material (1677b**)、raw material(1641*)、unmanufactured (1669a*) といった加工に関する語彙も生まれている。

さらに商品の品質を示す語彙として quality (1601*)、abased (1601*)、impaired (1601*)、deceptious (1669a)、superfine (1685)、undervalutation (1693) があげられる。

その他にも consumptive (1669a) が consumptive goods、bulky (1652*) が bulky commodities という連語 (collocation) を生んでいる。

II. 交易手段と方法

1．海上輸送 (Shipping and Navigation)

16世紀にスペインの無敵艦隊を撃破して以来、英国は海上覇権を拡大し続け、海の支配者 (Mistress of the Seas) となる礎を築いた。その結果、17世紀には英国商船の交易活動 (merchant shipping) は絶頂に達した。海洋技術の発達に伴い、東インド会社のインド貿易船 (Indiaman) が遠距離航路用に建造された。1602年にはゴズノールド (Captain Goznold) が大西洋の無寄港横断を果たし、新世界との交易の足がかりを作った。植民地制度 (Colonial System) が確立され、航海法 (Navigation Acts) を制定し、英国はプランテーション交易を独占した。東西交易による富の蓄積は次

世紀の産業革命を後押ししたことから17世紀の海上輸送の発達と海上覇権の拡大は英国が大英帝国となる礎になったといえよう。

同時代の文献に記載された海上輸送の語彙に関しては、帆船輸送や艤装に関する基本的な語彙は前世紀までに発生していた。例えば文献に記録された語で、harbor, mariner は13世紀、tackle「索具」, vessel, dogger「ドッガー船」, ship master, pier, shipping, sailor は14世紀、commander, buoy, freight, barge「艀」, dock, rig「艤装」, custom house, mast は15世紀、load, conveyance, pilot, ballast, navigation, embark, captain, hydrograph「水位計」, parcel, seamark「航路標識」, shallop「2本マスト帆船」, ashore, cordage「索具」, watch tower, bill of lading「船荷証券」等の語は16世紀にすでに使用されていた。

17世紀、遠洋航海による海外交易に関連する語がどの年代にどの程度発生したのかを知るために採録文献の年代順に採録語彙を表記する。

(　　)内は現代英語、[　　]内は文献の出版年、出版年に付された * は *OED* (Oxford English Dictionary) の初出例よりも早く記録された語 (antedatings), ** は *OED* に記載の無い語 (unregistered words) である。Cf. は *OED* からの引用である。

Dunkirker [1601*]「ダンケルクの私掠船」
entry [1601*]「入港手続き」
fleet [1601*]「船団」
invection [1601*]「輸入 (importが借用される以前に使用されていた語)」
maritime city [1601**]「海洋都市」
pack house [1601]「梱包倉庫」
sea trade [1601*]「海上貿易」
shipper [1601*]「船積み人、荷主」
exportation [1622*]「輸出」
governed [1623*]「政府掌管 (港)」
overbalance [1623*]「(輸入) 超過」
retransport [1623a*]「再輸送」
balance of trade [1623c*]「貿易収支」
underbalancing [1623c**]「(輸出) 過少」
on board [1628*]「船積み状態の」
capraue [1628**]「航海用具」
exportation [1630*]「輸出」
Batavia [1638*]「ジャカルタ」
Desnege [1638**]「船倉用具」
　　cf. Shipping equipment for strage
cagador (cargador) [1638*]「荷役人夫」
cargo [1638*]「積荷、貨物」
embouchure [1638a*]「河口」
export [1638a*]「輸出する」
exporting [1638a*]「輸出」
Mediterranean [1638a*]「地中海 (貿易)」
Poleartick [1638**]「北極」cf. Arctic[4]
Poleantartick [1638**]「南極」cf. Antarctic
contractor [1641*]「船荷契約者」
dockyard [1641*]「造船所」
imported [1641*]「輸入 (品)」
pursued [1641*]「私掠された (船)」
quay [1641*]「埠頭」
marine store [1641*]「船舶用品の供給所」
exported [1641a*]「輸出された (品)」
resident [1641a*]「海外駐在員」
　　cf. A representative at a commercial station
bulky [1641b*]「積荷容積が大きい」
insurance [1641b*]「(積荷) 保険」
bulk [1645]「積荷容積」
free [1645]「自由 (貿易)」
free trader [1645*]「自由貿易 (商人)」
monopolizing [1645*]「(交易市場) 独占」
restraint of trading [1645**]「貿易の制限」
seafaring man [1645**]「船乗り」
transfretation [1645]「渡海」
　　cf. The action of crossing over a channel
wealth [1645a*]「(交易) 資産」
　cf. The collective riches of a people or a country
exporter [1651*]「輸出業者」
importer [1651*]「輸入業者」
correspondent [1652*]「取引先」
　　cf. A person who has regular business with another in a distant place
free port [1652*]「自由港」
unrestrained exportation [1676**]「無課税の輸出」
smyrna [1680*]「トルコの交易都市」
break bulk [1681]「積荷を降ろす」
fresh water [1681**]「飲料水」
re-export [1681*]「再輸出」
foreign market [1689**]「海外市場」
smuckellors (smuggler) [1689]「密貿易者」
trading world [1689**]「交易界」
relade [1693]「(荷) を再度積む」
risque (risk) [1693*]「(交易上の) 危険性」

standard [1693]「(商品の) 基準」
cf. standard of commerce
Gold Coast [1695*]「(アフリカの) 黄金海岸」
importer [1695g*]「輸入業者」
reland [1700b*]「最陸揚げする」
relanding [1700b*]「最陸揚げ」
waterborn (water-borne) [1700b]「海上輸送の」
cf. Of goods: Carried ort ransported by water; conveyed by ship.

以上17世紀に生まれた交易手段と方法に関する語彙から判断できることは、前世紀まで英国には海外に交易品を送り出す「輸出」を表現する語彙が無かったことである。*OED* では、import は1548年、export は1665年が初出である (文献初出は1638年)。中世以来、英国の主要輸出品は羊毛が主であり、前章で述べたようにさまざまな輸入品が超過していた事情が export の語の借用を遅らせた理由の一つになった。*OED* の解説で、Export は 1485年に "carry (things or persons) out of place" という語義でフランス語から借用され、1665年に "to send out (commodities of any kind) from one country to another." という語義を借用している。上記の語彙一覧に見られるように export について "exporting", "exportation" "exported", "exporter" が、また、"import" に関して "imported", "importer", "imported" の派生語が同時代に生まれている。これらの事実から輸出入に関する基本語彙は17世紀に完成したといえる。また、交易制度の発展とともに交易を円滑、安全に遂行するために "contractor", "marine store", "resident", "insurance", "correspondent", "risk", "reland", "relanding", といった新たな語や語義が生まれている。特に "risk" という語の語義「投機上の損失」が生まれた背景は、東インド会社の株が投機の対象になったことや、商人、貴族の共同投資 (joint stock [1615]) による交易品の投機から発生したことが明らかである[5]。文献から "risk" を用いた引用文は以下の通りで、他国と取引する輸出業者のリスクが述べられている。

" ... here will be Ready Money without danger, and variety of Markets; whereas the Exporters run great Risques, are forced to sell where they first Land, and sometimes, to take Words instead of Money." (*An Essay on Wool, and Woollen Manufacture*, 1693, p.12)

また、当時の交易制度や政策を表す語として前出語彙一覧から "governed", "free trader", "monopolizing", "restraint of trading", "free port", "unrestrained exportation", "smuggler" 等の語があげられる。輸出入の物品に王室が高い関税を課し、関税逃れのために密貿易が頻繁に行われていたために "free port", "smuggler" のような語が発生したと考えられる。

外国語からの借用は "cargador" がスペイン語由来、maritime, export, marine, insurance, monopolizing, transfretation, correspondent, risque はフランス語からの借用である。17世紀は英国よりフランスの進んだ諸分野で英語へのフランス語借用が多くみられる。交易政策の分野でもその傾向があったようである。

"For Importers of them would have Goods in return, or Bill of Exchange, wherein the rest of the World have the advantage of us, as well as in Trade; and what this Nation doth lose by Exchange, might be shrewdly guess'd at, if our Law was like that excellent Law of France, which doth oblige all Bankrupts to produce their Books; and if it was so in England it would be much for the publick Interest, and for the credit of many unfortunate Persons in particular."
(*An Essay on the Coin and Commerce of the Kingdom*, 1695, pp.39-40)

上記引用文で示されるように、フランスでは交易に携わるものは収支の帳簿を作成することが法律で定められていたが、英国では未整備だったようである。フランスでは17世紀に Jaques Savary (1622－1690) が交易の手引書を出版し、ヨーロッパ各国で翻訳出版されるほどであったが、英国では一世紀遅れて出版に至っている[6]。

2．陸上輸送 (Land Traffic)

17世紀には英国貴族の子弟がフランスやイタリアを馬車で「大旅行」(Grand Tour) することが流行していたので、英国からフランスを経由してイタリアへ行く交通網は当時の旅行記によると整備されていたようである[7]。
文献に記録され、17世紀までに使用されていた陸上輸送に関する語では、highway, bridge, traveler, traveling,

hostler, inn は中世に、lodging, saddle-cloth, side-saddle は15世紀に、post, letter-carrier, traffic, trafficking, passenger, safe-guard, pillion, post-bark, は16世紀に生まれている。これらの語彙や「大旅行」の記録から、17世紀の英国内の交通網はかなり整備されていたことがうかがえる。また1641年の文献では整備された交通網を保全することが述べてられている記録がある。

"Fifthly, to keepe the Land wayes and passages, free and safe also from Theeves and Robbers, to mend Causeys, high-wayes and decayed Bridges, to build alberges, Innes, lodgings and places of safety whare none is, in fit and commodious places, for the reposing and rest of men and beasts of carryage, where all accommodation, both for men and horses travelling, may be had at ease and reasonable rates and prises, and where all needfull things may bee obtained, for the travailer which he may ordinarily stand in need of." (*The Treasure of Traffike,* 1641, pp. 46-47)

以上の記述から街道には追いはぎが出没していたこと、人や家畜が移送され街道沿いに宿泊施設 alberges, Innes, lodgings 等が経営されていたことがうかがえる。

17世紀に生まれた文献記載の陸上輸送に関する語彙は次の通り。
(　　)内は現代英語、[　　]内は文献の出版年、出版年に付された * は *OED* (Oxford English Dictionary) の初出例よりも早く記録された語 (antedatings)、** は *OED* に記載の無い語 (unregistered words) である。Cf. は *OED* からの引用である。

wain-load [1601*]「大荷車用の道」
alberges (auberge) [1615]「旅籠」
foot post [1641]「郵便配達人」
cf. A letter-carrier or messenger who travels on foot
accommodation [1641a*]「宿泊施設」
King's High Way [1649*]「国道」
caravan [1673*]「有蓋馬車」cf. Covered carriage
strapping [1673*]「馬具用皮ひも」
cf. Leather strap for harness
stage coachman [1673*]「乗り合い馬車の御者」
coach-horse [1673]「馬車馬」
hackney-coach [1673]「四輪馬車」
pillion cloth [1673]「婦人用の軽い鞍の布地」
stage-coach [1673]「乗り合い馬車、駅馬車」」
postilion [1673]「郵便配達人」
cf. One who rides a post-horse, a post boy

輸送手段として16世紀に coach（4輪馬車）が作られ馬車の大型化が進み、17世紀には2頭立て6人乗りの "hackney-coach" や有蓋馬車 "caravan" が開発され、荷物や乗客を以前より大量に快適に輸送していたことが察せられる。また、*OED* では1895年が初出とされる "King's Highway" は1649年の文献で確認された。道路網の整備が進み街道沿いに宿場ができた結果、16世紀に始まった郵便制度が17世紀に "foot post", "postilion" といった郵便用語の発達を促したことが明らかである。

3．度量衡

度量衡に関する記録は文献121部中、3部の文献で確認されたのみである。

限られた資料ながら、当時の英国及び日本を含む貿易相手国の度量衡やその制度を示す語彙が採録された。

長さの単位、インチ (inch) は文献では12 inches = 1 foot、3 foot = 1 yard と現代と同一数値を示している。しかし、3 feet 9 inches が 1 ell、5 yards が 1 perche、40 perche が 1 farthindole、4 farthindole が 1 acre と現代では消失した単位も記録されている。また、*OED* では定義されてないが、文献では 1 inch は 3 grains と定義されている。これは 1 inch の基本が穀物の粒から生じたことを示し、新たな事実を提供している[8]。

英国での度量衡は同単位であっても都市によって数値が異なっていたことも述べられている。例えば、毛織物の布地には取引用に 4 standard clothes という単位が使用され、ロンドンでは、幅 6½ quarters, 重さ 60 li. (libra pound)、長さ 24～26 yards の基準数値であった。しかし、都市や地方によって数値が異なっていたことを示している[9]。

液体容積も商品（エール、ビール、ワイン）によって単位 (firkin, kilderkin, hogshead, tertian, butt, pipe, rundle) と数値が異なっていることを記録している[10]。

以上のように多種多様な単位や数値が使用されていたので各都市の執政官 (magistrate) による認可、裁

定が行われ、これに違反した者は重罪に課されていた。

"In all Cities then and palces of traffique there is found a weight (as I said) authorized by the *Magistrate*, which to alter or diminish is ever held a capital crime: this weight thus settled in evetry place and Cities of trade, is reputed the Standard of the place, by which as well the inhabitants as strangers do make their bargaines and contracts, and without which many bargaines cannot be made and perfited ..."
(*The Merchant Mappe of Commerce*, 1638, p.34)

英国内が以上のような状況であったことから、海外交易における度量衡は複雑を極めたであろうことは容易に察せられる。ヨーロッパ内でさえ、li.(libra pound)の数値は異なっていた。例えば、ロンドンの112 li.はヴェニスでは 164 li. シチリア 62 li. フィレンツエ 143 li. リヨン 118 li. ブルージュ 112 li. であった。中近東では li. に対し Rot. (= Rotolo) が使用され、ロンドンの 112 li. はトリポリでは 97 Rot. アレクサンドリア 51.9 Rot. コンスタンチノープル 101 Rot. であった[11]。

文献では他に bahars, mands, candils, peculls, cane, alne, brace, pico, sticke, palme, vare, ovado, 等の単位が記録されている。これらの語彙は*OED*に採録が無く、文献においても使用国の表示が無く調査不可能な語彙となった。

日本の記録では、17世紀の英国と日本の交易に関する文献は僅少で、長崎の英国商館長 Richards Cocks の Diary (1615－23) が知られている位である。調査文献では日本との交易記録が記載されており、日本の度量衡「升」、「一石」、「万石」の単位が記録されている。ちなみに「一石」の等量は three ale pints と示されている。

以下、文献に記載された関連語彙を重量、長さ、容積別に示す。

重量

bahar [1638*]「インドの単位」cf. A measure of weight used in India, varying in value in different places from 223 to 623 lbs.

cane [1638*] 「フランスの単位」

cantar [1638a*]「地中海沿岸諸国の単位」
cf. A measure of capacity or weight used in some of the countries bordering on the Mediterranean, varying greatly according to the locality from 743/3 Lbs.

長さ

cantar [1638**]「アラブの単位」

farthindole [1638**] 「英国の単位」

perche (perch) [1638] 「英国の単位」
cf. Measure equal to 5½ yards.

mere [1649*], 「英国（鉱山用尺度）の単位」

ell [1680] 「英国、フランドル地方の単位」
The English ell = 45 inches.

容積

英国の単位

gallon [1638b*]

kilderkin [1638] cf. A cask for liquids or fish, etc. of a definite capacity (half barrel.

firkin [1638] cf. Half a kilderkin.

hogshead [1638] cf. A liquid measure containing 63 old wine-gallons.

tertian [1638]
cf. An obsolete liquid measure for wine, oil, etc.

butt [1638] cf. 2 hogsheads, i.e. usually in ale measure 108 gallons...

pipe [1638]
cf. Equivalent to half a tun, or 2 hogsheads.

rundle (runlet) [1638] cf. Large runlet appear usually to have varied between 12 and 18½ gallons.

Winchester measure [1638] cf. Dry measures the standard of which were originally deposited at Winchester.

外国の単位

ickegoga [1638*]「日本の単位：一石」

mangoga [1638**], 「日本の単位：万石」

mas [1638**], 「日本の単位：升」

*OED*に採録無く使用国不明の単位

bahars, mands, candils, peculls, cane, alne, brace, pico, sticke, palme, vare, ovado, cantar forfori, cantar laidin, cantar mena

III. その他

前章、「交易」と「交易手段と方法」の範疇に収まらなかった文献語彙を記載文献の年代順に以下表記する。

consulate [1601*]「商館」cf. The office or establishment of modern commercial consul.
private trade [1601*]「諸カンパニーによる交易、特許状の無い交易、」
promiscuous [1601*]「規則に則っていない（交易）」
correspondence [1601*]「交易関係」
cf. Commercial intercourse; business relations.
confiscate [1601*]「没収」
clearness [1601*]「（独占からの）開放」
appropriating [1623a*]「割り当て（額、権利）」
cf. That assigns to a special owner or purpose.
regular [1641*]「規則に則った（交易）」
deficit [1645*][1671*]「貿易収支の赤字」
prodigiously [1648a*]「驚異的に」
aggrandize [1648a*]「（交易を）拡大する」
empower [1648a*]「（国力を）つける」
public nuisance [1638]「公の利益に反すること」
discourage [1641]「（商品が）売れなくなる」
emulate (v.) [1611]「競う」
speedy remedy [1677**]「迅速な法的措置」
cf. Legal redress.
publik (public) good [1677]「公共の福利」
cf. The common or national good or well-being.
publik (public) welfare [1677*]「公共の福利」
cf. The common well-being.
magazine [1677]「倉庫」
corporation [1677]「法人」
cf. An artificial person created by royal charter ...
committee [1677]「（議会の）委員会」
cf. A body of persons appointed or elected for some special business ... Hence, in the usage of Parliament ...
balance (n.) [1679]「（貿易）収支」
clothing trade [1681**]「繊維、布地の交易」
at home [1681**]「国内（産）の」
excess [1681]「超過」
convenience [1681]「優位性」cf. A convenient state or condition of matters; an advantage.
balance (v) [1681]「収支を保つ」
eminent [1681]「高価な（布）」cf. Of things or places: Chief, principal, important; especially valuable. *Obs.*
transplant (v.) [1674]「移住する」cf. emigrate. *Obs.*
native (n.) [1685]「自国民」cf. One of the original or usual inhabitants of a country.
balance of trade [1693]「貿易収支」
correspondent [1695]「駐在員、連絡要員」cf. A person who has regular business relations with another.
public trade [1695**]「特許状による交易」
trading nation [1695**]「交易立国」

上記の語彙から時代背景を示すものはpublicとprivateの定義である。王室から交易の特許状 (Royal Charter) が付与された冒険商人 (Merchant Adventurer) や諸カンパニー (East India, Levant, Muscovy, Virginia Companies) による交易が "public" tradeであり、well ordered and "regular trade" だとみなされ、他の交易商人とは一線を画していた。一方、"private trade" は "promiscuous" なもので国益に貢献しないものとみなされていた。

> "For certainly, a Liberty for a Private Trade, in some cases, may bring that Mischief upon the Publik Concern of a Nation, not easily to be removed gain." (*A Treatise of Wool, and The Manufacture of it*, 1685, p.23)

しかし、public という語はチャールズ１世の死刑、共和制、王政復興を経て17世紀末に、"public good", "public welfare" という公 (common) の福利に関する語義を獲得している。また、交易は国民の福利に寄与し、その収支は国家にとって重要な関心事項となった。このため交易の収支に関する語が生まれている。これらの語彙、balance (n.), balance (v.), balance of trade, deficit（文献初出1645年、*OED*初出は1782年）は全てフランス語から借用されている。17世紀から交易収支に関する問題が国家財政にとって重要な要素となるのである。

また、同時代を反映する語として "transplant" が「（人が）移住、移民する」という語義を持っていたことである[12]。英国はヘンリー７世 (1457-1509) の時代にフランドル地方の織物職人を移住させ毛織物産業の奨励に勤めた歴史がある。17世紀は内戦やペストによる人口減で英国内は労働力不足となり、政策として外国人

労働者を国外から招き入れた。特にフランスからのユグノー (Huguenot) 移住は英国の加工技術向上に貢献したといわれている。そのため、migrate, emigrate が18世紀に定着するまで "transplant" 「(人) を移住させる」、"transplant oneself" 「(人) が移住する」が使用されていたと考えられる。

おわりに

文献から収集された語彙を分類、考察したことにより語彙が含蓄する社会、歴史背景が示され17世紀英国の社会と言語の関係がより一層鮮明に提示された。交易品のうち、輸入は17世紀前半と後半に生活必需品から奢侈品への転換がみられ、輸出は輸入超過の債務を補うために原材料から付加価値をつけた加工品への産業転換がみられた。また交易手段の語彙から、船積み関連の専門用語が発達していたこと、輸出 (export) という語が17世紀に定着したことや自由貿易の概念が萌芽していたことが示された。世界規模での交易の発達にも拘らず、度量衡において、ヨーロッパ内はおろか英国国内でも基準の統一が成立されてないことも判明した。また、商業・交易のシステムに関してはフランスが英国に先鞭をつけ、英国はそのシステムを踏襲したがゆえにフランス語からの借用が商業・交易の分野で大規模に行われていることが証明された。

これまで文学作品は英語史の分野で言語資料として綿密に研究されてきたが、英国商人が著した文献、交易に関する政府の法令 (Ordinance) や布告書 (Proclamation) は言語資料としていまだ研究されつくされてはいないので今後さらに文献の発掘、調査が望まれるといえよう。

注

[1] Minchinton, 1969, pp. 1-5.

[2] Ibid, pp. 80-82.

[3] 英国における飲茶の始まりは、1662年国王チャールズ2世に嫁いだポルトガルの王女キャサリンが東洋の茶と飲茶の習慣をもたらしたといわれている。

[4] OED には "Poleartic" と "Poleantartick" は無記載であるが、Samuel Johnson の *A Dictionary of the English Language* (1755) には採録されている。

[5] Canny, 2001, p. 400.

[6] Savary の *Le Parfait Négociant ou Instruction Générale* (巻末資料－1参照) を Postlethway が英訳して *Universal Dictionary of Trade and Commerce* (巻末資料－2参照) という表題で1751年にロンドンで出版した。

[7] Misson, 1695, *A New Voyage to Italy.*

[8] Roberts, 1638, p. 248.

[9] Ibid. p. 250. 4 standard clothes の地域別比較

	Breadth	Weight	Measure
Kent, Yorke	6 ½ qu.	86 li.	30 & 34 yds.
Suffolk, Norfolk	7 quar.	80 li.	29 & 32 yds.
Worster, Coventry	6 ½ qu.	78 li.	30 & 33 yds.
Wiltshire, Gloster	7 quar.	76 li.	29 & 32 yds.

[10] Ibid. p. 249. 液体容積単位と数値比較

		Gallon	Potles	Quart.	Pints
	Ale the Firkin	8	16	32	64
Of Ale.	Kilderkin	16	32	64	128
	Barrell	32	64	128	256
	Beer the Firkin	9	18	36	72
Of Beer.	Kilderkin	18	36	72	144
	Barrell	36	72	144	288
	Kilderkin	18	36	72	144
	Barrell	31	62	124	248
Of Wine.	Hogshead	63	126	252	504
	Tertian	84	168	336	672
	Butt or Pipe	126	252	504	1008
	Tun	252	504	1008	2016

[11] Ibid. p. 240.

[12] OED によると transplant 4. の語義 "To leave one place of abode and settle in another; to emigrate." は 1662年で廃語扱いになっているが採録文献は1681年の出版である。

参考文献

第一次資料

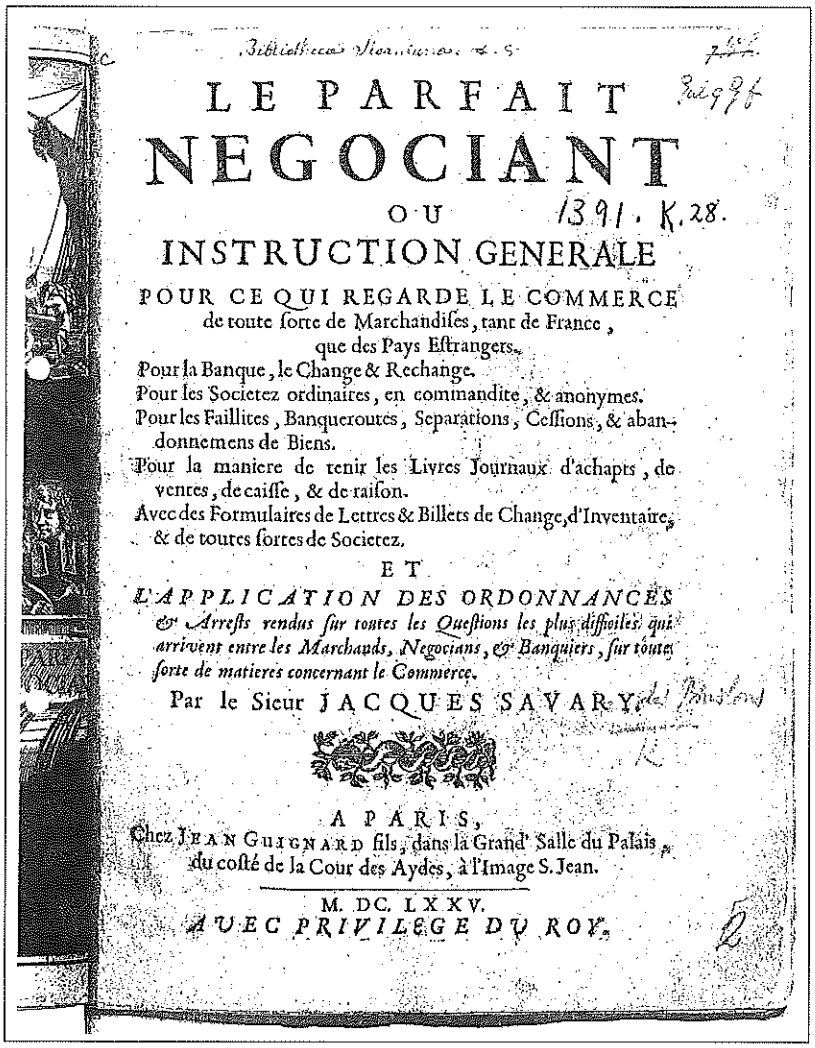
・商業・交易文献約122部については『西南女学院大学紀要』Vol. 7～9 (2003～5) の「第一次資料」欄を参照。

・*The Oxford English Dictionary.* (1989) Second Edition, 20 vols. Oxford: Clarendon Press.

第二次資料

- Canny, N. (1998) *The Origins of Empire*, Oxford: Oxford University Press
- Hughes, G. (2000) *A History of English Words*, Oxford: Blackwell
- Johnson, S. (1755) *A Dictionary of the English Language*, London: W. Strahan
- Minchinton, W. E. (1969) *The Growth of English Overseas Trade*, London: Methuen & Co., Ltd.
- Misson, M. (1695) *A New Voyage to Italy*, London: Bentley
- Postlethway, M. (1751) *Universal Dictionary of Trade and Commerce*, London: John & Knapton
- Roberts, L. (1638) *The Merchant Mappe of Commerce*, London: Ralph Mabb
- Savary, J. (1675) *Le Parfait Négociant ou Instruction Générale*, Paris: Guignard

（資料－１）



LE PARFAIT
NEGOCIANT
OU
INSTRUCTION GENERALE
POUR CE QUI REGARDE LE COMMERCE
de toute ſorte de Marchandiſes, tant de France,
que des Pays Eſtrangers.
Pour la Banque, le Change & Rechange.
Pour les Societez ordinaires, en commandite, & anonymes.
Pour les Faillites, Banqueroutes, Separations, Ceſſions, & abandonnemens de Biens.
Pour la maniere de tenir les Livres Journaux d'achapts, de ventes, de caiſſe, & de raiſon.
Avec des Formulaires de Lettres & Billets de Change, d'Inventaire, & de toutes ſortes de Societez.
ET
L'APPLICATION DES ORDONNANCES
& Arreſts rendus ſur toutes les Queſtions les plus difficiles qui arrivent entre les Marchands, Negocians, & Banquiers, ſur toute ſorte de matieres concernant le Commerce.
Par le Sieur JACQUES SAVARY.

A PARIS,
Chez JEAN GUIGNARD fils, dans la Grand' Salle du Palais, du coſté de la Cour des Aydes, à l'Image S. Jean.

M. DC. LXXV.
AVEC PRIVILEGE DU ROY.

（資料－２）

THE

UNIVERSAL DICTIONARY

OF

TRADE and COMMERCE,

Tranſlated from the French of the Celebrated

Monſieur SAVARY,

INSPECTOR-GENERAL of the MANUFACTURES for the King, at the Cuſtom-houſe of *PARIS*:

WITH LARGE

Additions and Improvements,

Incorporated throughout the Whole WORK;

Which more particularly accommodate the ſame to the

TRADE and NAVIGATION

Of theſe Kingdoms,

And the LAWS, CUSTOMS, and USAGES,

To which all Traders are ſubject.

By MALACHY POSTLETHWAYT, Eſq;

LONDON:

Printed for JOHN and PAUL KNAPTON, in Ludgate-Street.

MDCCLI.

Vocabulary of Texts on Trade and Commerce in 17th Century England (4)

Ichiro Iida

＜Abstract＞

England imported merchandise from the New World and Asia with the development of 17th century overseas trade. Under such socio-economic changes, England expanded the lexicon of English with the coining of new words and foreign language borrowing. New vocabulary is mostly found in the field of trading merchandise and trafficking in the texts of trade and commerce in 17th century England. These collected words show the new historical and socio-geographic background of the country in areas such as shipping, navigation, weights and measures, law and policy. Studying these new words underlines the close relationship which formed between language and society in 17th century England. Therefore, this paper is written using an interdisciplinary approach researching economic history as well as lexicon.

Keywords: New Word, Borrowing Word, Trading Merchandise, Trafficking, Weights and Measures